

不嶋市政 Kick-off!

宣誓書

七尾市総合計画の基本構想を基に、七尾市が目指す将来像「人が輝く交流・体感都市 ―七尾湾と温泉を活かした― 能登から世界への架け橋―」を推進し、安心と幸せを実感する七尾をつくります。

マニフェスト 【好き大好き ふるさと七尾づくり 6つの柱】

1. 活力溢れる地域産業づくり
2. 訪れたくなるまちづくり
3. 安心・安全市民の暮らしを守ります
4. 未来を担う人づくり
5. 産業・交流・市民生活を支える社会基盤づくり
6. 効率的で質の高い行政を目指します

平成24年11月7日

七尾市長

不嶋豊和

合併した8年前、厳しい財政状況や人口減少、そして地域感が違つ中で、初代市長武元市政がスタート。

武元前市長は、8年の歳月をかけ、七尾市の行財政改革を推進。効率的な財政運営の健全化を成功させ、さらに地域づくりや人材育成を中心に、七尾市を成長させてきた。

その間、「七尾市総合計画」を策定。将来像として「七尾湾と温泉を活かした 能登から世界への架け橋 人が輝く 交流体感都市」を掲げ、交流人口の拡大を図ってきた。

そして11月7日、二代目市長不嶋豊和市政が誕生。不嶋市長のマニフェストでは、これまで行ってきた施策を成熟させ、北陸新幹線の開業や能登有料道路の無料化、能越自動車道の開通などを絶好のチャンスと位置づけ、独自の施策を掲げ実行しようとしている。

総合計画も中盤。「人が輝く交流体感都市」が形に現れる時期に差し掛かり、不嶋市政の4年間はこのような展望があり、どう展開されていくのか。

不嶋市長は、今後の七尾市の未来を託すかじ取り役。特集では、マニフェストで掲げた「ふるさと七尾づくり6つの柱」を詳しく語ってもらい、今後の七尾市の展望をイメージしてみる。

不嶋豊和市長が語る

マニフェスト

七尾づくり 6つの柱



市長となった今の感想

11月7日に七尾市長となりました。

最初の一週間は、忙殺されましたけど、12月補正予算の時期でもあるので、エンジン全開で取り組んでいるところ

です。これからの任期である4年間は、しっかりと仕事をして結果を出さなければならぬ期間だと思っています。

とにかく、元気な七尾市に

したい、市民の皆さんと協働のまちづくりを進めていこうと決意を新たにしています。

「好き 大好き ふるさと七尾」を掲げた理由は？

昨年6月に、「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されました。その時にひらめいた内容が「好き 大好き ふるさと七尾」で、「豊かなる里のうみ山 守り伝えん」と続きます。能登は豊かな自然ばかりではなく、能登の人の生活や文化、過去から守り伝えてきた伝統などがあります。こういった先人たちが伝えてきたものを、これからの子どもたちに伝えていきたいという想いから、掲げさせていただきました。

市政運営の基本方針は？

今年の9月1日から「七尾市まちづくり基本条例」が施行されました。市民が主役のまちづくりを基本に、市民と行政がともに協働し合いながら、まちづくりに取り組んでいかなければなりません。

また、平成21年4月にスタートした「七尾市総合計画」

もあります。これは、10カ年計画、平成30年までの計画です。まだまだ、やらなければならぬことがたくさんあります。これからが中盤。七尾市の将来像である「人が輝く交流体感都市」の実現に向け、この計画を実施していかねければなりません。

よって、「七尾市まちづくり基本条例」で掲げる市民が主役のまちづくりや、「七尾市総合計画」を着実に実施していくことが、市政運営の基本方針となります。

マニフェスト「ふるさと七尾づくり6つの柱」を掲げた理由は？

七尾市は、少子高齢化や人口減少が止まりません。また、いろいろな経済対策を、国や県の協力をいただき行ってきましたが、いまだに雇用や地域経済は厳しい状況です。このような中で、七尾をどのように元気にしなければならぬのかというところから考えました。

産業を強くし、人々が安心して生活できるようにという考えから、6つの柱を掲げました。